**第２回福山市上下水道事業経営審議会議事録**

１　日　　時　　２０１５年（平成２７年）１０月２７日（火）

　　　　　　　　午前９時から１２時２５分まで

２　場　　所　　中津原浄水場　水質管理センター２階会議室

３　出席委員　　１０人（委員総数　１０人）

　　　　　　　　石井委員，小田委員，客本委員，日下委員，河野委員

小林委員，武井委員，堤　委員，橋本委員，平田委員

（※名前は五十音順）

４　傍聴人　　２人

５　次　　第

　（１）開会

　（２）上下水道事業管理者挨拶

　（３）議事

　　　①　諮問

　　　②　上下水道事業の概要及び経営状況について

　　　　　・地方公営企業会計制度の見直し

　　　　　・２０１４年度（平成２６年度）決算

　　　　　・２０１５年度（平成２７年度）予算

　　　　　・上下水道事業の中長期事業計画

　　　　　　　「福山市水道事業中長期ビジョン」

　　　　　　　「福山市公共下水道事業経営計画」

　（４）閉会

６　議事録

（１）諮問

内田上下水道事業管理者から堤会長へ諮問書を提出した。

　その後，事務局から諮問理由の説明を行った。

（２）上下水道事業の概要及び経営状況について

　　ア　事務局から「地方公営企業会計制度の見直し」及び「２０１４年度（平成２６年度）決算」について説明した。

　　　その後，次の内容の質疑応答を行った。

委　員　　退職給付引当金について，水道事業会計と下水道事業会計で金額が違う。一般会計との負担割合はどうなっているのか。

事務局　　基本的には，地方公営企業の上下水道局に在職している期間について，公営企業会計の3会計で支払っている。旧水道局の職員はこれまで水道事業会計で業務を行っている。下水については，企業会計移行前（2011年度（平成23年度））までの在職期間分は，一般会計での負担としているため，下水道会計は水道に比べてかなり引当金が少ない状況となっている。

　　　　委　員　　貸倒引当金を計上しているが，どのような積算をしているのか。

　　　事務局　　積算については，過去の不納欠損の実績（過去の貸倒実績率）をもとに積算している。最終的な収納率は，水道・下水道とも99.9％となっている。残り0.1％は本人の死亡や行方が分からないため未収金となっており，この部分について不納欠損処理している。

委　員　　下水道事業会計の収支不足補てんは，一般会計からの基準外繰入金になるのか。また，その部分は地方交付税で措置されるのか。

事務局　　収支不足補てんに対する一般会計繰入金は，基準外繰入金であり，その財源は，地方交付税で措置されておらず，一般会計が一般財源（税金等）で負担している。

　　　委　員　　水道事業の有収率については，将来的に向上する見込みはあるのか。

　　　事務局　　有収率を上げていくことは，上下水道局としても大きな課題と考えている。現在は，費用対効果を考慮し，５年程度で市内全域を漏水調査し，漏水箇所があれば修繕して有収率の向上に努めている。また，配水管整備事業により漏水履歴の多い老朽管を布設替えし，漏水を未然に防止している。

　　イ　続いて事務局から「２０１５年度（平成２７年度）予算」について説明した。

　　　その後，次の内容の質疑応答を行った。

委　員　　松永浄化センター用地について，耐震補強をする部分と売却する部分があるのか。

　　　　　水道料金が収益全体の87％を占めているということであるが，これが他都市と比較して良い数字なのかどうか。また，下水道使用料が41％となっているが，どうなのか。

事務局　　松永浄化センター用地については，現在土地の東側に処理施設を建設しており，耐震補強をすることとしている。また西側の土地は，将来の水需要の増加と下水道の高度処理のために確保していたものであるが，今後の水需要の動向や人口減少を考慮し，必要ないとの判断で売却をすることとしている。

　　　　　水道料金や下水道使用料が維持管理費に占める割合については，水源の有無や処理場の規模，建設着手の時期など，都市によって事情が様々であるので，一律に比較することは難しい状況である。

委　員　　固定資産の売却代金を予算に計上してあるが，不要遊休地の処分については，基本的には賛成である。

　　　　　特に下水道事業であれば，企業債残高が１千億円を超えていることから，松永浄化センターの固定資産売却代金を財源として，いくらかは繰上償還したらどうか。

事務局　　松永浄化センターは，国からの補助が60％，残り40％が企業債を発行して用地を取得している。この40％の部分の償還が30年になるので，すでに償還は終っているものもある。仮に繰上償還をする場合は，国の財政融資資金か旧公営企業金融公庫から借りており，補償金が必要となってくる。補償金を出して繰上償還をするということは，局が損をするという国の制度となっているので，繰上償還はなかなかできない状況になっている。

委　員　　東部市民センターの売却にあたり，繰上償還はできるのか。

事務局　　東部市民センターについては，自己資金で購入しており，企業債を発行していないので，繰上償還は発生しない。

ウ　続いて事務局から「上下水道事業の経営状況」について説明した。

　　　その後，次の内容の質疑応答を行った。

委　員　　水道料金，下水道使用料の改定は，どのような手続きを踏んで行っているのか。

　　　　　また，人口減少は上下水道事業の経営にも影響する。福山市ではどのような人口減少対策に取り組んでいるのか。

事務局　　毎年度，内部で今後の経営状況について試算をしている。この中で下水道事業が将来的に厳しい経営状況になることが見込まれ，管理者から値上げをしないといけない状況であることを市長へ報告した。議会へ議案を提出する権限は管理者にはないので，管理者が試算した内容について，市長から議会の方へ提案した。その後，議会の中で市民の代表である議員と議論し，納得していただいて，最終的には採決という流れになる。今回は，水道料金・下水道使用料の改定について，可決いただいた。

次に，人口減少対策については，備後圏域の連携中枢都市圏構想ということで，6市2町で様々な取組を行っていくため連携協約を結んでいる。この中で，例えば人口を増やすためには圏域の産業の活性化や子どもを産んで子育てをしやすい環境を作るなど，あらゆる視点で総務省が示している枠組みに基づいた取組を6市2町で連携して実施していくこととしている。

上下水道局としては，安心・安全な生活環境の確保，地震等に強い上下水道施設や浸水対策などが充実されれば，逆に福山市へ移住して来られる方も増えてくるのではないかと思う。

委　員　　水道料金，下水道使用料の改定の影響額はどの程度か。

　　　　　また，下水道使用料の改定は，一般会計からの赤字補てんを解消したこと以外に，改定の効果として予算に計上しているものがあるか。

事務局　　影響額については，水道料金について年間7，8千万円程度の減収を見込んでいる。また，下水道使用料については，3年間で財政収支計画を作成したところ，約24億円のマイナスが生じるということで，平均で16.56％の改定を行うことによって，約24億円の収支不足が解消できると見込んでいる。

　　　　　　　　　改定の効果については，水道料金であれば負担の公平性の確保ということで，使用実態に応じた料金体系にできたということである。

また，下水道使用料については，約24億円の不足のうち，一部を企業債借入額の抑制のための経費を見込んでいる。予算的には大きく見えないが，借入額が今後抑制できるという効果があると考えている。

委　員　　下水道事業の財政見通しで，使用料収入は減少する見込みだが，いつ資金が不足するのか，また，基準外繰入金（赤字補てん）が発生する見込みはあるのか。

また，今回の使用料改定は，３年間の財政収支計画によるものであるが，今後は短いタイミングで値上げがあるのか。

事務局　　昨年の改定時に10年間の財政見通しを策定している。その時は基準外繰入金が発生していた。この改定の目的（16.56％の値上げの目的）は，基準外繰入金の解消と企業債残高の削減である。今回は3年間の財政収支計画に基づいた使用料の値上げであるが，基準外繰入金は今後10年間発生しない見通しである。

なお，資金残については，現在１億円弱となっており，非常に厳しい状況が続くものと考えている。

委　員　　使用料改定により，基準外繰入金の解消はできるとのことだが，約１千億円の企業債残高を大幅に削減できる状況ではないと理解してよいか。

事務局　　多額の企業債残高があるため，今後はより借入額を少なくしないといけないということで，企業債の借入の抑制をするための費用も計上して16.56％の改定を行ったが，直ちに企業債残高が大幅に削減できる状況ではない。

エ　続いて事務局から「上下水道事業の中長期計画」について説明した。

その後，次の内容の質疑応答を行った。

委　員　　受益者負担の原則で，「雨水公費」「汚水私費」ということだが，雨水については，雨はすべて平等に降っているので，雨水処理に要する費用を全市民で割ってしまうのが平等ではないか。

　　　　　２点目として，水道・下水道両方とも厳しい状況であると思うが，水道・下水道とも同事業ということで会計的に分けずに，お互い補てんし合う方が現実的ではないか。

　　　　　３点目として，給水戸数という表現があるが，この戸数に法人は入っているのか。

事務局　　汚水については，使用者が特定できるため下水道使用料で負担していただいている。雨水については，どこでも降りますので，都市計画税を含む税金で整備している。

　　　　　次に，水道と下水道の会計を一緒にしたらどうかということについては，水道と下水道の使用者が異なっているため，負担の公平性の観点から難しいこと，また，法的にも地方公営企業法において事業ごとに特別会計を設けて経理する（17条）ことを義務付けているため難しい。

　　　　　次に，給水戸数については，一般家庭のみであり，法人は入っていない。

委　員　　下水道水洗化率の向上対策を強化しているが，どのくらいの効果があるのか。芦田川浄化センターにおける汚泥固形燃料化施設の導入について，どのくらいの収入を見込んでいるのか。

事務局　　水洗化率の向上というのは経営を大きく左右するものであるので，局の最重要課題として取り組みを行っている。現在，水洗化率は92％で8％の方が未接続である。これを向上することによっての効果は，1％上げると（下水道使用料の値上げをしているので），3千5,6百万円の増収となる見込みである。これを8％上げると3億円弱の増収になる。

芦田川浄化センターにおける汚泥固形燃料化施設の導入に伴う収入については，数字を持ち合わせていないので，次回（第３回）で回答させていただきたい。

委　員　　福山市水道事業中長期ビジョン実施計画の後期の策定に当たって，前期の取組をどのように検証・評価しているのか。

事務局　　後期の実施計画については，前期の実施計画をＰＤＣＡサイクルに基づいて検証をする中で策定している。実施計画（前期）の６７の取組項目の大半が達成できたということで，後期実施計画を策定する前の議会で報告している。

　　　　　具体的には，資料で次回説明させていただきたい。

委　員　　使用料を大幅に改定すれば，見込みと実績が大きく変わってくることがあるが，下水道使用料収入の見込みはどうなのか。

事務局　　基本的には，下水道は新たな汚水整備をしているので使用料は伸びていくが，昨年度は減収となっている。今年度は若干回復する見込みであるが，現在水需要の分析をしているところであり，整理でき次第報告する。

委　員　　水道の使用量は減少し，下水道も伸びが見込めない状況である。

施設の耐用年数は当初想定していたときよりも長期間使用できるのか。現状の設備についての耐用年数はどうなのか。

事務局　　耐用年数は，水道の管路が40年，下水道の管渠が50年となっている。これは法定耐用年数であるが，実際にはもっと長期間使用しないといけないということで，アセットマネジメントの視点を導入して，いかに今後の更新投資を抑制していくか，現在試算しているところである。

委　員　　財政見通しは，上下水道の中長期計画の考え方をベースにしているのか，それとも現在作成中のアセットマネジメントを考慮しているのか。

事務局　　昨年作成した中長期計画には，アセットマネジメント手法を活用した更新需要の試算をしていなかったため，反映していない。今後の水需要の動向で水道料金・下水道使用料がどれくらい入ってくるのか，また，どれだけの事業費が必要かという見込みの中で水道ビジョン，実施計画，公共下水道の経営計画を策定している。

委　員　　市街化区域内については，100％公共下水道で整備する考えとのことだが，下水道事業の経営を行う上で非常に大きく影響するため，もう一度議論する方がよいのではないか。

事務局　　今後の人口減少等の要因も含めて検討しなければいけないと考えている。今後，考え方を整理し，皆さま方にお示ししたいと思っている。

委　員　　今後の施設整備の考え方として，企業債を減らすのか，増やすのか，将来の子や孫が借金を負担していくことも考慮した議論をしていきたい。

　　　　　基本的には，経営という意味では，内部留保資金を消費しないように担保していきながら経営していくということと，下水道で１千億円，水道で４百億円ある借金を今後どうしていくかというところは，この審議会に与えられた大きな宿題と思っている。

　　　　以上で今審議会の議事が終了した。

その後，会長から次回に開催予定の審議会の議題として，

　　　　　・上下水道事業のアセットマネジメント

　　　　　・今後の水需要の動向や現在作成中の財政見通し

　　　　の２点について取り上げるよう指示があった。

　　　　それ以外の要望として委員から

・下水道整備が芦田川の水質浄化にどの程度寄与しているのか教えていただきたい。

　　　　という意見が出た。

　　　　最後に，第３回審議会の議題として

　　　　①上下水道事業のアセットマネジメントについて

　　　　②今後の水需要予測と財政見通しについて

　　　　を取り上げるとともに，今審議会において回答できなかった質問や委員から要望のあった

　　　　　・芦田川浄化センターの汚泥固形燃料化施設の収入の見込み

　　　　　・福山市水道事業中長期ビジョン前期実施計画の達成度と評価

　　　　　・下水道整備と芦田川水質浄化との関わり

　　　　について取り上げることを委員全員が確認し，第２回福山市上下水道事業経営審議会を閉会した。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（12時25分閉会）